

「かけらのかたち」



本日は、筑波大学陶磁研究室所属学生によるワークショップ「かけらのかたち」に参加して頂きありがとうございます。

今日は偶然にも 3 月 11 日から 3 ヶ月が経ちました。一言では語れないくらい日本という国の価値観が変化した日と 3.11 は刻まれると思います。

私と同郷（高知）で大先輩の陶芸家、柳原睦夫先生が学生時代に感じたことで今回ほどうしみじみと読み返し私の中に染みいった言葉があります。

「破片は陶器の器の部分が破壊され陶になったのであり、それは終わりではなく始まり、何かの復活ではないかと思うようになった。」

「触覚」の内包する空間－現代陶芸の造形思考：金子賢治著 より

今回のワークショップは美術館、学生、私、また参加された方々にとって、特別なモノとなることは間違いないと思います。

ぜひ楽しんで、また出来上がった世界に一つしかないかけらのかたちをコレクションして頂ければ幸いです。

今回の企画は 3 月 11 日以前から依頼されていましたが、今回の件で、自身の中でできること考えること又は行動することの大切さを与えてくれました。

また今回のワークショップ運営に協力（陶磁器を提供してくださった方々）美術館スタッフ、学生達に感謝致します。

筑波大学大学院芸術専攻陶磁分野
准教授 齋藤敏寿

